

外国生まれの結核患者が増加しています ～外国人を雇用される事業者の皆様へのお願い～

近年の外国人労働者の増加に伴い、新規結核患者に占める外国生まれの患者の割合が全国的に増加しています。熊本県においても、平成28年は過去10年のうち患者数・割合ともに最多となっており、今後も増加していく可能性があります。

結核を正しく理解して、外国人をはじめとした従業員の健康管理に努めましょう。

1. 結核とは？

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症がおこる病気です。

せきやたんが出る、微熱が続くなど、結核の症状は風邪によく似ています。結核は、せきやくしゃみとともに飛び散った結核菌が空気中をただよい、それを吸い込むことで感染します。結核にかかっていることに気づかず治療が遅れると、病状を悪化させてしまうだけでなく、知らないうちに周りの人に感染させることもあります。感染した人すべてが発病するわけではありませんが、発病した場合でも、きちんと治療すれば治る病気です。また、患者の経済的負担を軽減させるため、医療費の公費負担制度も整備されています。



せきが2週間以上続く



たんが出る



からだがだるい



微熱が続く



体重が減る



食欲がない

2. 定期健診、早めの受診が大切です

健康診断や気になる症状があるときには早めに受診することにより、結核を早期発見することができ、家族や職場など周りの人への感染を予防することができます。

●労働安全衛生法に基づき、事業者には健康診断の実施が義務付けられています。

| 健康診断の種類 | 対象となる労働者 | 実施時期 |
|----------|-----------|-----------|
| 雇入時の健康診断 | 常時使用する労働者 | 雇入れの際 |
| 定期健康診断 | | 1年以内ごとに1回 |

※厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署 作成リーフレットを参考に作成

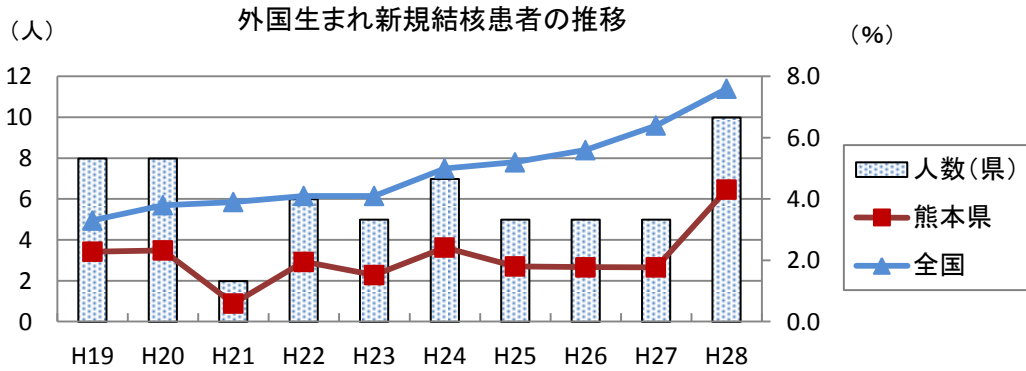


自覚症状がないこともありますので、定期健康診断(胸部X線検査)の実施をお願いします。
また、上記1に記載している症状がある場合には、早めに受診を勧めてくださいますようお願いいたします。



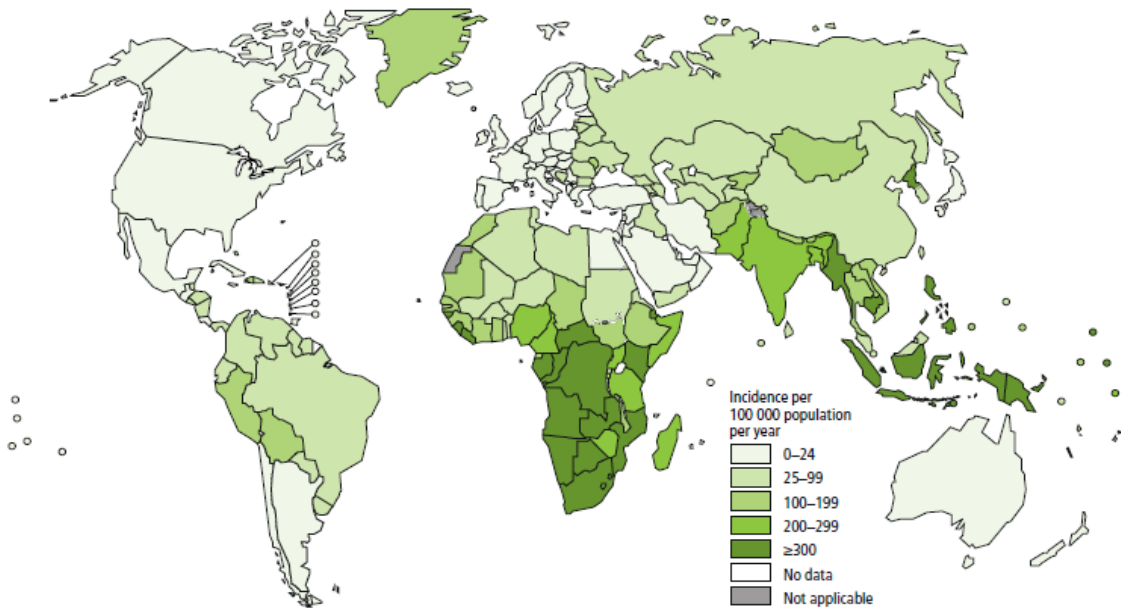
3. 結核患者の発生状況

熊本県においては、年間 300 人弱の方々が結核を発症しており、その 7～8 割は高齢者です。結核患者数は年々減少していますが、若い世代を中心に外国生まれの患者が増加傾向にあります。



4. 結核は世界中でまん延しています

Estimated TB incidence rates, 2016 世界の推定結核罹患率(2016)



(GLOBAL TUBERCULOSIS REPORT2017 から抜粋)

▲色が濃い方が、人口 10 万人あたりの結核患者数が多い国を示しています。

2016 年に、世界の新規結核患者数が最も多かったのは**アジア**で 45%を占め、次いで**アフリカ**で 25%を占めています。**インド、インドネシア、中国、フィリピン、パキスタン、ナイジェリア、南アフリカ**の 7 か国で全体の 64%を占めています。

結核がまん延している国の出身者は、母国での結核感染リスクが高く、来日後に発病する可能性があるため、特に注意が必要です。

5. 結核についてもっと知りたいときは

結核に関する情報については、最寄りの保健所にご相談いただくか、結核予防会ホームページ (<http://www.jatahq.org/>)をご覧ください。

| | | | |
|--------|--------------|-----------|--------------|
| 有明保健所 | 0968-72-2184 | 山鹿保健所 | 0968-44-4121 |
| 菊池保健所 | 0968-25-4138 | 阿蘇保健所 | 0967-24-9036 |
| 御船保健所 | 096-282-0016 | 宇城保健所 | 0964-32-1207 |
| 八代保健所 | 0965-33-3229 | 水俣保健所 | 0966-63-4104 |
| 人吉保健所 | 0966-22-3107 | 天草保健所 | 0969-23-0172 |
| 熊本市保健所 | 096-364-3189 | 県庁健康危機管理課 | 096-333-2240 |